

森林鉄道跡めぐりツアー

令和3年10月の遠野市文化教育振興財団による「森林鉄道遺構巡り」に続き、今年度はパハヤチニカ編集委員会主催の「森林鉄道跡めぐりツアー」が開催されることとなり、見学ポイントの下見と4月16日のツアー本番に関係者として同行させていただいた。

パハヤチニカとは、アイヌ語で早池峰を意味するが、編集委員会とあるとおり岩手県遠野郷の手作り情報誌の名称である。その第32号の特集が森林鉄道であり、鉄道に関わってきた方々の思い出などが詰まった貴重な資料となっており、これに合わせて開催するものである。

今回のツアーは、森林鉄道に縁のある3名の方の生の声を聞きながら、跡をめぐるという贅沢な企画だ。

遠野駅に集合した横浜からの参加者を含めた6名と関係者2名の合計8名は、森林鉄道の終点でかつては製材工場もあった材木町に行き、早速往年の様子を伺う。

上柳の貯木場跡では、水中貯木の様子などを伺う。

次のポイントの橋脚を目指して、作業道の上に咲くカタクリを踏まないように慎重に歩き、林内は新芽が出る前であるため見通しがきき、とてもすがすがしい散歩である。

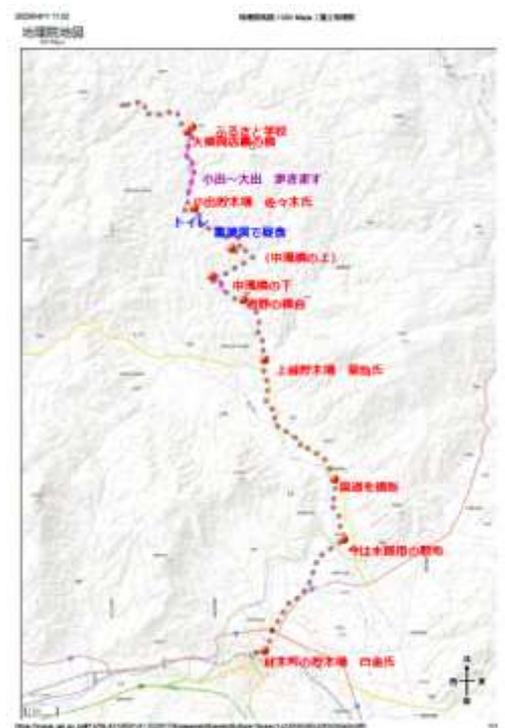
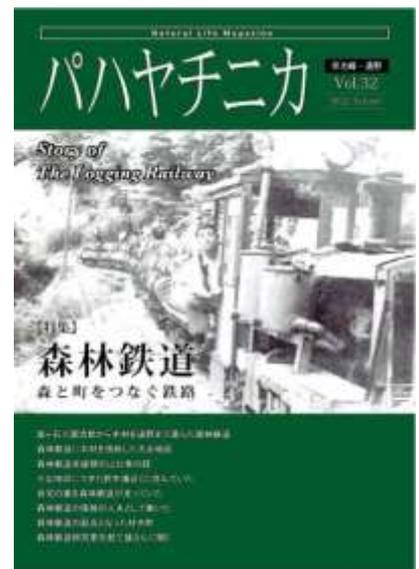
苔むした石積の橋脚や、その上に生える樹木から時の流れを感じとる参加者達。

小出の貯木場跡では、脱線した話等を伺った後、大出まで1時間くらいかけてゆっくりと歩みを進めた。

最後の振り返りでは、地元の事なのに知らないのか、などの感想があった。

古き良き物を大切にすることは地域の良さを深めることにも繋がる。さびゆく美しさを次世代に残すよう地域の方と協力したい。

支署長 山田



「地理院タイル（標準地図）にツアーのルートを追記して記載」

